

# 治山林道協会報



令和元年度全国森林土木写真コンクール **最優秀賞** 中西 義 貢

目次

CONTENTS

- 新年のあいさつ 徳島県治山林道協会会長 山口俊一 … 1
- 新年のご挨拶 徳島県知事 飯泉嘉門 … 2
- 新年のご挨拶 徳島県農林水産部農林水産基盤整備局長 松本 勉 … 3
- 令和元年度日本林道協会通常総会 治山・林道コンクール表彰式 … 4
- 2019治山林道のつどい … 5
- 治山林道技術研修会開催 … 6
- 令和元年度全国森林土木写真コンクール … 7
- 令和元年度山地災害防止標語・写真コンクール … 7
- 本協会の主な動向(10月~12月) … 7
- 備忘録 … 7



# 新年のあいさつ



徳島県治山林道協会会長

山口 俊一

令和二年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、ご壮健で新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃は、治山林道事業の推進に格別のご支援、ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

ところで今年「子の年」ですが、干支の最初の年であり植物が成長に向かつて種子が膨らみ未来へ大いなる可能性を持つとの意味があるそうです。

そしてまさにこの年に国挙げての行事である、東京オリンピックが開催されます。開催に向け紆余曲折あり準備されている方々のご苦労はいかばかりかと思いますが、国民の後押しにより大成功に導いていただくことを願っています。

そういつた中、昨年は、元号が平成から令和に改元されました。天皇陛下の皇位継承の重要な儀式である「即位の礼正殿の儀」そして「大嘗祭」が厳かに執り行われました。新しい時代への幕開けを感じ、国内ばかりでなく多くの人々が新しい時代への期待と未来への大いなる希望を抱いたところです。

一方世界では、一昨年からの課題であった、アメリカと中国、欧州における貿易摩擦、関税問題に少しひかりが見えたような気もいたしますが大きな課題も残っており、引き続きその動向をめぐり判断

を許さない状況にあります。また、朝鮮半島問題も各国それぞれが四面楚歌となつています。まさに今後日本に及ぼす影響が懸念されるところです。

国内においては、昨年まで長期間つづいた経済の景気回復基調は、世界の動向に翻弄されその方向性に陰りが見えてきました。これらを踏まえ、政権運営を託された今、より一層の国力の強化と地方創生に向けた取り組みに邁進していかねばならないと考えております。

この様に国内外において課題の多い中、昨年も日本列島を自然災害が猛威を振るいました。梅雨前線に伴う線状降水帯豪雨により佐賀県、長崎県では浸水の被害を受け、台風15、19号により関東甲信、東北地方において河川の氾濫や山腹崩壊により大災害となり多くの尊い命が奪われました。その後も台風等の豪雨により被災地域が拡大し、現在も国、県、各団体からの応援により復旧に向けた取り組みが鋭意行われているところです。まさに事前防災・減災対策が必要不可欠な取り組みであり、これまで以上にスピード感をもって対応していかなければならないことを痛感しております。

このため林野事業におきましても、異常気象が異常気象でなくなりつつある昨今、多発する豪雨による甚大な山地災害の状況を見据え、またこれから起こるで

あろう巨大地震に備える事前防災・減災対策としての緑の国土強靱化、そして林業の成長産業化を図る上において更なる予算確保に務めてきたところです。

その結果、令和元年度補正予算として、林野関係予算の治山事業として一七三億円、森林整備事業として二一八億円、総額三九一億円が計上されました。

令和二年度林野公共当初予算につきましては、全体では一、八三〇億円、対前年度比一〇〇・一％、治山事業費で六〇七億円、森林整備事業費では一、二二三億円となつております。これらに今回対応されます防災減災、国土強靱化のための緊急対策の臨時・特別措置分三六八億円を加えますと二、一九八億円となり、大きく増額した昨年度の予算に匹敵する規模となりました。

これからも予算の確保、事業の推進にあたりましては、当協会の会長として、また「森林整備・治山事業促進議員連盟」「(社)日本治山水協会・日本林道協会」の会長として、これまで以上に治山林道事業の推進に精一杯努力して参ります。

今後とも、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。これからの会員皆様のさらなる活躍、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。

# 新年のご挨拶



徳島県知事

飯 泉 嘉 門



明けましておめでとうございます。

徳島県治山林道協会の皆様におかれましては、輝かしい新年をお健やかに迎えることと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、平成から令和への改元、七色の虹がかかった「即位の礼」、県内で作られた麻織物「籠服」が調進された大嘗祭など、日本が新たな時代の幕開けを実感する一年となりました。

県内では、「阿波藍」が紡ぐ歴史・伝統芸能が「日本遺産」に認定され、踊りの輪が世界を繋いだ「世界阿波おどりサミット」、徳島インディゴソックスの「独立リーグ日本一」、徳島ヴォルティスのJ1挑戦など、徳島の文化・スポーツが大きく躍動するとともに、消費者庁と本県との共催による日本初の「G20消費者政策国際会合」はじめ、エシカルの輪を広めた「食品ロス削減全国大会」や全国初、高校生による「エシカル甲子園」など、全国をリードする本県の「新次元の消費者行政・消費者教育」が国内外に強力に発信されました。

また、西日本初となる「全国木育サミット in 徳島」では、「木のぬくもり」を取り入れた暮らしを目指す「ウッドスター」や、森林と地球環境の保全により「持続可能な社会の実現」を図る「とくしま木育共同宣言」を行うなど、「木育」に

関する熱い話題を全国に発信し、その機運を醸成するとともに、これら成果をレガシーとして、県版「とくしま木育サミット」を開催したところであります。

さらに、「地方創生の旗手」として、一歩先の未来を具現化してきた本県の取り組みが評価され、一〇〇万人以下の県及び四国から初となる「全国知事会会長」に選任されました。国と責任を共有する

「より一層行動する知事会」を掲げ、人口減少・災害列島「二つの国難」や全世界型社会保障改革への対応はじめ、これまでの常識が通用しない未知の世界に積極果敢に取り組んできました。

さて、今年の干支は「庚子（かのえ・ね）」。 「庚」は、これまでの流れを痛みを伴って「更新」する事を表し、十二支の初めに返った「子」は、「陽気の到来と増殖」を暗示します。そこで「庚子」は、「混乱の世から新たな相が現れ、痛みを伴うものの陽の新時代が幕を開ける」とされます。

今年、「5G」の商用サービスが開かれ、「IoT・ビッグデータ・AI・ロボット」など第四次産業革命の技術が織りなす「Society5.0時代」が本格的に到来するとともに、多様性と調和をコンセプトに「東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック」が開幕します。

ホストタウン相手国四か国の「事前キャンプ」が県内各地で実施され、本県文化芸術の拠点「文化の森総合公園」は開園三十周年を迎えます。県民の皆様への夢と希望を育むレガシーを創出するとともに、消費者庁の新たな本庁機能「新未来創造戦略本部」との連携では、SDGsの推進をはじめ、未来に向けた消費者行政の発展・創造に繋げて参ります。

また、県営林道「谷山霧越線」の全面開通では、那賀町・海陽町間における木材搬出コストの低減をはじめ、災害時における地域の皆様の避難路・迂回路として活用されることが期待され、今後とも「林業の振興」と「地域の安全・安心の確保」に繋がる農林道の整備を積極的に促進して参ります。

「日本の未来を託す」と称された地方創生の第二幕、「知恵は地方にあり」の旗の下、Society5.0の実装はじめ、課題解決の処方箋をタイムリーに打ち出し、日本全体をSDGs・持続可能な社会へと導いて参りますので、本年も、宜しくお願い申し上げます。

結びに、徳島県治山林道協会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

# 新年のご挨拶



徳島県農林水産部農林水産基盤整備局長

松本 勉

新年明けましておめでとうございます。徳島県治山林道協会の皆様には、つがなく新しい年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

平素より、治山林道事業をはじめ、本県農林水産行政全般にわたり、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は豪雨災害が増加する中、特に台風19号は関東甲信、東北地方の広い範囲に記録的な豪雨をもたらし、各地で河川の氾濫や山腹崩壊を引き起こしました。その結果、多くの尊い人命が奪われるなど、甚大な被害が発生したことは記憶に新しいところです。

一昨年、本県においても、三好市をはじめ、各地で林地や林道の大規模な災害が発生し、県土面積の約四分の三を占める森林の整備や保全に直結する治山林道事業の重要性を再認識したところです。

県ではこれまでも、平成三十年度十一月補正等と令和元年度当初予算を合わせた十五か月予算により、県土強靱化をはじめとする諸課題に取り組んでまいりましたが、令和元年の台風19号や一昨年の西日本豪雨では、山腹崩壊による人家等への直接的な被害のみならず、道路が倒木や土砂等により寸断され、孤立化した集落

が発生しました。このことにより地域住民にとって生活道であり、かつ避難路としての機能を持つ道路の通行を確保することは事前防災の観点から重要であることが明らかとなりました。

このようなことから、十一月県議会では、避難路としての機能を持つ市町村道や農道・林道周辺等の山地災害危険地区の緊急点検を実施する「山地災害危険地区緊急点検事業」を令和元年度補正予算に盛り込み、堆積土砂や流木の状況等の現地調査を行うこととしており、その結果を踏まえ、今後の事業に繋げて参ります。

一方、国では、多発する自然災害を受け、昨年十二月に、被災した山地の緊急的な復旧整備や迂回路等として機能する林道の整備を実施する「防災・減災対策」の令和元年度補正予算が策定されました。さらに決定した令和二年度林野公共预算案では、対前年度比百十九パーセントの増となる総額二千二百九十九億円が確保され、速やかに対策に着手することとなりました。

県といたしましても、これらを最大限に活用して、令和元年度補正予算及び令和二年度当初予算の編成に取り組むこととしており、今後とも、間伐などの森林

整備や治山施設の設置による森林の防災機能強化、発災時には緊急輸送道路ともなる林道の整備など、積極的な事業展開を図って参ります。

また、日頃から、山地災害や土木技術に関する専門知識を有する「山地防災ヘルパー」の皆様に、危険地区の情報提供や点検・パトロールの強化についてご協力をお願いしているところですが、災害発生時には、小型無人機ドローンなども活用して迅速に現場調査や復旧計画の策定などを進めて参りたいと考えております。

このようなハード・ソフト両面からの対策を一体的に進め、あらゆる大規模災害を迎え撃つ「緑の県土強靱化」に全力で取り組んで参る所存です。

今後とも、「県民目線・現場主義」を徹底し、市町村や地域住民の皆様と十分な連携を図りながら、効率的かつ効果的な事業推進に努めて参りたいと考えておりますので、協会会員の皆様の一層のご支援とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、徳島県治山林道協会のご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



# 令和元年度 日本林道協会通常総会 治山・林道コンクール表彰式



十一月二十七日東京都内の全国都市会館で令和元年度の日本林道協会の通常総会が開催されました。冒頭山口会長から、「今年もまた大型台風19号により関東甲信、東北地方に大きな災害があった。この気象が異常気象でなく今後同様の大型台風が何時襲

来してもおかしくない状況にある。災害に伴う防災減災対策は非常に重要であり政府も十分理解しており最優先課題となっている。先だってもこれらについて、議員連盟や治山治水協会として関係機関、財務省等への要望活動をおこなってきたが、これらを受け国は大型補正、当初予算において防災減災にウェイトをおいた取り組みを行うと言われていた。来年度までの国土強靱化三カ年対策の延伸、拡充について取り組み、長期計画を踏まえた財源確保に向け努力していきたい」との力強い決意の挨拶がありました。

また、来賓の林野庁太田次長より「緑の国土強靱化対策と林業成長化産業の実現に向けた森林土木事業の着実な推進を図っていく」との挨拶がありました。

続いて山口会長が議長に就任し議案第一号から議案第五号まで全会一致で原案どおり承認され、林道事業予算の確保と施策の充実等五項目について取り組んで行くこととなりました。

恒例の「治山・林道コンクール表彰」が行われ、県内では林野庁長官表彰二名をはじめ合わせて五名の方々が各賞を受賞されました。受賞者の皆様方は次のとおりです。まことに改めてとうございます。

## 治山・林道コンクール表彰者

### 林野庁長官賞

●第四十二回林道維持管理コンクール  
神山町長 後藤正和  
神山町 大地の森線

### 林野庁長官賞

●第二十回民有林治山木材使用コンクール  
有限会社 高木建設 高木伸也  
美馬市 復旧治山工事 嫁坂

### 日本治山治水協会会長賞

●第三十五回民有林治山工事コンクール  
平山土建 株式会社 平山朋生  
吉野川市 予防治山事業 小竹

### 日本林道協会会長賞

●第三十五回民有林林道工事コンクール  
株式会社 谷田組 谷田勝良  
海陽町 禅僧線平井

### 日本林道協会会長賞

●第二十回民有林林道木材使用工事コンクール  
株式会社 平谷建設 西原正彦  
那賀町 長安海川線丈ヶ谷

# 2019 治山林道の つどい

十一月二十七日東京都内の全国都市会館で「二〇一九治山林道のつどい」が日本治山治水協会、日本林道協会主催のもと、多数の国会議員、協会関係者、総勢四五〇名あまりの参加で開催されました。

冒頭に山口会長から「先の西日本豪雨、今年の台風19号等により、広範囲にわたる大災害が発生し多くの方々  
が被災を受けた。近年これまでの異常気象が当たり前の  
状況と化している。これらに対応するため来年度で終了  
予定の国土強靱化三カ年緊急対策の継続、拡充と次年度  
以降の恒常的な森林土木事業、災害対策予算を確保する  
ことに尽力する」等の挨拶がありました。その後、江藤  
農林水産大臣と二階自民党幹事長から力強い激励があり  
林野庁小坂森林整備部長の基調報告、現場からの声とし  
て柳詰球磨村長、大澤長瀬町長、兵頭鬼北町長から災害  
についての報告がありました。その後、頻発する山地災  
害や森林・林道災害を受け、地域の社会基盤である森林・  
山村を守るため、治山事業及び森林整備事業による緑の  
国土強靱化、林道等路網整備の強力な推進等に向けた林  
野公共事業予算の拡充を実現する等の決議が採択され、  
関係者一丸となった要請活動を行うこととなりました。





# 治山林道技術研修会開催

十月三十一日徳島市の建設センターにおいて徳島県のご協力のもと、令和元年度治山林道技術研修会が盛大に開催されました。

約一〇〇名以上の参加があり、治山林道工事に繋がる研究や情報、安全で事故のない現場管理、及び日々変貌する森林土木技術の対応と資質向上を目指す研修となりました。参加者は全国土木施工管理技士会連合会の継続教育学習制度CPDSの単位を取得されました。

研修の講師及び概要については次のとおりです。



## ■研修Ⅰ 平成二十九年七月九州北部豪雨災害に係る復旧支援について

徳島県農林水産部農林水産基盤整備局森林整備課  
村浪主査兼係長

近年日本各地で豪雨災害が頻繁に発生している。平成二十九年七月に梅雨前線から発生した線状降水帯による九州北部豪雨も大規模な豪雨災害となった。国、各県からの支援体制がととのえられ、徳島県からも、一年間の支援派遣があった。これらの経験から、早期復旧支援に向けての設計業務や現場指導についての取り組みやこれからの支援活動について、また今後の豪雨災害への防災対策と備えについて考えた。

## ■研修Ⅱ 労働安全衛生について

徳島労働局 労働基準部  
岡崎主任専門官

全国の労働災害建設業関係の概況と徳島県における労働災害の実態について解説し、具体的な計画から原因と事故の回避についての研修を行った。

## ■研修Ⅲ 平成三十年七月豪雨で発生した土砂災害から学ぶ

徳島大学・大学院社会産業理工学研究部  
西山准教授

昨年七月西日本において大災害となった豪雨災害について検証する。今回は、広島県や四国（徳島県、高知県、愛媛県）における土砂災害に関与した気象条件、地形、地質についての詳細報告と、これらか



ら判断できる今後の防災対策・減災対策の取り組みべき方向性について解説があった。

## ■研修Ⅳ 土木技術者の原点と今後の対策セミナー

コンピューターシステム研究所  
松野次長

働き方改革の流れから週休二日での工事体制が整いつつあるがそれらに伴い技術革新が多くなっている。その新技術の取り組みに対応するべく具体例を示し学んでいく。

一点目は、コンクリート標準示方書の改正、新技術対応を含めた多様な施策についての解説と具体的な現状について紹介された。

二点目は、土木技術者の安全管理について、ヒューマンエラー、リスクアセスメント、事例検討等により現状の対応について解説があった。

# 令和元年度 全国森林土木 写真コンクール

最優秀賞

## 中西 義 貢さん

全国森林土木建設業協会主催の森林土木写真コンクールにおいて当協会から推薦した中西義貢さん(徳島市)の作品が全国第一席の最優秀賞を受賞されました。誠にめでたくございます。

全森建コンクルの趣旨は、森林土木に各種事業が、森林・林業を基盤から支えると共に、国民の生命財産を守っているという極めて重要な事業であることとを広く国民各層に浸透させ、理解を深めるために募集されています。

応募作品内容は  
・工事現場で精力的に働く関係者の姿

・工事を円滑に進めるため地域住民との話し合い風景  
・次代を担う子供たちの笑顔と森林土木工事等です。

今回、令和元年度全国森林土木写真コンクールでは、全国から代表の四十八点の応募があり、最優秀賞二点、優秀賞四点が選ばれました。

# 令和元年度 山地災害防止標語・写真コンクール

最優秀賞

## 「くずさない！ 守り育てる ぼくらの山」

橋本 篤 さん (徳島県名西郡神山町 神領小学校四年)

日本治山治水協会主催の山地災害防止標語部門において、全国最優秀賞(林野庁長官賞)として徳島県の 橋本篤さん(徳島県名西郡神山町 神領小学校四年)が受賞されました。今回は全国から一般、小中高一、九七一作品の応募がありその中の第一席となっております。さらに奨励賞(協会長賞)として五点中の一点として、徳島県の大西凌馬さん(徳島県名西郡神山町 神山中学三年)の作品『将来を 見据えて進める 治山事業』が受賞されました。

また写真部門において、全国優秀賞(協会長賞)五点中の一点として、徳島県から丸田泰史さん(徳島県徳島市)が受賞されました。写真につきましては全国から九七点の応募がありました。

このコンクールでは山地災害に対する国民の理解と関心を深めるため、都道府県及び市町村が行う「山地災害防止キャンペーン」の関連行事として、標語・写真の作品を募集してきました。

今回は、このように多くの標語作品の中から最優秀賞、奨励賞を受賞されました橋本篤さん、大西凌馬さん、また写真部門優秀賞受賞の丸田泰史さん、まことにめでたくございます。応募されました皆様ありがとうございました。これからも多くの作品の応募よろしくお願いいたします。



橋本 篤 さん (中央)



丸田 泰史 さん



大西 凌馬 さん

## 備 忘 録

令和2年の新春 謹んでお喜び申し上げます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。  
昨年日本各地で大きな災害があり、災害対応の一次補正が実施され、年末には災害、公共対策を含む大型補正の発表もありました。事前の10月には徳島県森林組合連合会、徳島県素材生産流通協同組合と当協会が令和2年当初予算と補正に関する要望陳情を国の財務省主計局に行いました。主計官より要望に関して防災減災、国土強靱化について出来るだけ対応していきたいとお話がありました。また昨今の災害被害対応についてももしっかり取り組んでいくとの話がありました。  
当初や補正での予算の大幅増の声も聞こえつつありますが、獲得に向け十分気を引き締めて取り組んで参りたいと思います。

## 本協会の主な動向 (10月～12月)

- 10月  
29日(火) 徳島県森林関係団体として財務省への要望活動 (東京都)
- 11月  
7日(木) 令和元年度中四国森林土木建設業協議会 (山口県)  
27日(水) 令和元年度日本林道協会通常総会、治山林道コンクール表彰式 2019治山林道のつどい (東京都)  
28日(木) 令和元年度全国森林土木建設業協会技術・労働委員会 (東京都)
- 12月  
23日(月) 令和元年度治山林道事業に関する知事要望 (徳島県)